

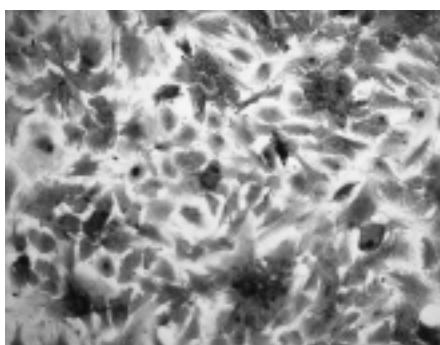
## 抗ラット Organic Cation Transporter 3 ポリクローナル抗体

薬物及びその代謝物の膜輸送に関与する薬物トランスポーターは、基質認識の多様性等から、さまざまなトランスポーターに分類されています。特に、有機アニオン、同カチオン、両性イオンの3つのトランスポーターより構成される有機イオントランスポーターファミリーでは、輸送基質として極めて多種類の内因性、外因性有機物(薬物や異物)及びその代謝物を含みます。

Organic Cation Transporter 3 (OCT3)は、胎盤など様々な場所で発現しており、腎臓においては、有機カチオン薬物トランスポーターとして注目されています。また脳においては、モノアミンレベルでの調節機構に関与していると示唆されており、陽イオン神経毒素や神経伝達物質の処理に有意な役割を果たしていると考えられています。

本抗体は、ラットOCT3の部分ペプチドを抗原として作製しました。OCT3の脳内分布、細胞レベルでの発現などを解析する上で有用です。

容量	25 $\mu$ g (100 $\mu$ L/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2% ブロックエース(安定化蛋白)、0.1% proclin 含有]
保管方法	-20 以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は4 で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	ラット OCT3 の部分ペプチドを免疫して得られたウサギの抗血清より、ペプチドアフィニティーカラムにて精製。
使用濃度	免疫染色: 1 ~ 5 $\mu$ g/mL



免疫染色

Sample : 培養した SD 系新生児ラット脳アストロサイト

提供: 東京医科大学 薬理学講座

武田 弘志 先生

稲津 正人 先生

## 抗ラット Organic Cation Transporter 3 ポリクローナル抗体

### 【参考文献】

1. Kekuda R. et al. : J Biol Chem. 1998 Jun 26;273(26):15971-9
2. Wu X. et al. : J Biol Chem. 1998 Dec 4;273(49):32776-86
3. Wu X. et al. : Am J Physiol Renal Physiol. 2000 Sep;279(3):F449-58
4. Inui KI. et al. : Kidney Int. 2000 Sep;58(3): 944-58
5. Inazu M. et al. : J Neurochem. 2003 Jan;84(1):43-52
6. Kitaichi K. et al.: Neurosci Lett. 2005 Jul 1-8;382(1-2):195-200. \*

\*本抗体を使用した文献です

製造元

 株式会社トランスジェニック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-6

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> [techstaff@transgenic.co.jp](mailto:techstaff@transgenic.co.jp)